

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年9月24日(2010.9.24)

【公開番号】特開2010-174014(P2010-174014A)

【公開日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【年通号数】公開・登録公報2010-032

【出願番号】特願2010-30168(P2010-30168)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/85 (2006.01)

A 6 1 Q 19/02 (2006.01)

A 6 1 Q 15/00 (2006.01)

A 6 1 Q 5/02 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 8/85

A 6 1 Q 19/02

A 6 1 Q 15/00

A 6 1 Q 5/02

A 6 1 K 47/34

A 6 1 Q 5/12

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月27日(2010.7.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

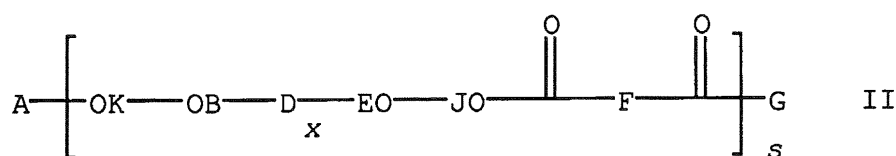
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

構造式 I I のオリゴエステル。

【化 1】



(式中、s は 2 ~ 100 の整数であり、

- OB - D - EO - はジオールフラグメントの一部であり、

OB 及び EO は - CH₂ - O を含み、

D は 4 級窒素原子を含み、

OK 及び JO はプロポキシ基を含み、

F は二酸フラグメントの一部であり、

A と G は末端基であり、

- OB - D - EO - がアミンジオールから誘導され、少なくとも 1 のアミンジオールが、N - エチル - N, N - ジエタノール、N - メチル - N, N - ジメタノール、メチルジエタノールアミン、ベンジルジエタノールアミン、ラウリルジエタノールアミン、セチルジエタノールアミン、ステアリルジエタノールアミン、エルシルジエタノールアミン、およ

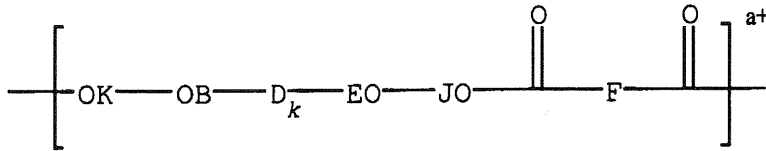
びベヘニルジエタノールアミンからなる群より選択され、

F が異なるジカルボン酸から誘導され、少なくとも 1 のジカルボン酸が、C 3 6 ダイマー酸であり、他のジカルボン酸がアジピン酸、アゼリエク酸、マロン酸、ピメリン酸、セバシン酸、スベリン酸、コハク酸、フタル酸からなる群より選択される。)

【請求項 2】

構造式 B の構造ユニットを含むオリゴエステル。

【化 2】



(B)

(式中、a は 1 0 までの数であり、

- O B - D - E O - はアミンジオールから誘導され、

D は 4 級窒素原子を含み、

O K 及び J O はプロポキシ基を含み、

F はジカルボン酸から誘導され、

少なくとも 1 のアミンジオールが、N - エチル - N , N - ジエタノール、N - メチル - N , N - ジメタノール、メチルジエタノールアミン、ベンジルジエタノールアミン、ラウリルジエタノールアミン、セチルジエタノールアミン、ステアリルジエタノールアミン、エルシルジエタノールアミン、およびベヘニルジエタノールアミンからなる群より選択され、

F が異なるジカルボン酸から誘導され、少なくとも 1 のジカルボン酸が、C 3 6 ダイマー酸であり、他のジカルボン酸がアジピン酸、アゼリエク酸、マロン酸、ピメリン酸、セバシン酸、スベリン酸、コハク酸、フタル酸からなる群より選択される。)

【請求項 3】

p H が 4 ~ 9 の範囲の組成物において用いられる請求項 1 または 2 に記載のオリゴエステル。

【請求項 4】

少なくとも 1 のジカルボン酸が、C 3 6 ダイマー酸であり、他のジカルボン酸がアジピン酸である請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載のオリゴエステル。

【請求項 5】

G は H、O H、R₆、または O R₆ であり、および / または A は H または R₇ であり、R₆ および R₇ は独立して、疎水性のエンドキャップ基である請求項 1、3、または 4 のいずれかに記載のオリゴエステル。

【請求項 6】

R₆ および R₇ は独立して、ベヘン酸、エルカ酸、カプリン酸、オレイン酸、リノール酸、イソステアリン酸、リシノール酸、および 1 2 - ヒドロキシステアリン酸から誘導される、請求項 5 に記載のオリゴエステル。

【請求項 7】

第 4 級置換基が、アルキル基、アルコキシ基、アリールアルキル基、アルキルアリール基、フルオロ基、プロモ基、クロロ基、アセトキシ基、アルキルアセトキシ基、アリールアセトキシ基、カルボキシ基、アルキルカルボキシ基、ヒドロキシ基、またはアルコキシヒドロキシ基からなる群から選択される、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載のオリゴエステル。

【請求項 8】

少なくとも 1 つの前記第 4 級窒素原子が U V 活性部分で置換されている請求項 1 ~ 7 の

いずれかに記載のオリゴエステル。

【請求項 9】

前記 UV 活性部分が、桂皮酸、p - アミノ安息香酸 (PABA)、ベンゾフェノン - 1、ベンゾフェノン - 2、ベンゾフェノン - 3、ベンゾフェノン - 4、ベンゾフェノン - 6、ベンゾフェノン - 8、ベンゾフェノン - 12、メトキシシンナメート、エチルジヒドロキシプロピル - PABA、グリセリル PABA、ホモサレート、アントラニル酸メチル、オクトクリレン、オクチルジメチル PABA、メトキシ桂皮酸オクチル、サリチル酸オクチル、2 - フェニルベンズイミダゾール - 5 - スルホン酸、トリエタノールアミンサリチレート、3 - (4 - メチルベンジリデン) - ショウノウ、アボベンゾン、および 2, 6 - ジカルボキシナフタレン酸からなる群より選択される UV 吸収性化合物から誘導される請求項 8 のオリゴエステル。

【請求項 10】

薬学的または化粧品的に許容可能な溶媒と、0.01 重量% ~ 99.0 重量% の請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載のオリゴエステルと、意図する用途で有効な量で使用される少なくとも 1 種類の活性成分または追加成分を含む医薬品、化粧品、またはパーソナルケア製品。

【請求項 11】

請求項 1 または 2 に記載のオリゴエステルクワットを製造する方法であって、

(i) 少なくとも 1 のアミンジオールをプロポキシル化する工程と、

(ii) プロポキシル化アミンジオールを少なくとも 1 のジカルボン酸と反応させてオリゴエステルを生成させる工程と、

(iii) オリゴエステル中の少なくとも 1 の窒素原子を 4 級化する工程とを含む方法。

【請求項 12】

前記第 4 級窒素原子が、桂皮酸、p - アミノ安息香酸 (PABA)、ベンゾフェノン - 1、ベンゾフェノン - 2、ベンゾフェノン - 3、ベンゾフェノン - 4、ベンゾフェノン - 6、ベンゾフェノン - 8、ベンゾフェノン - 12、メトキシシンナメート、エチルジヒドロキシプロピル - PABA、グリセリル PABA、ホモサレート、アントラニル酸メチル、オクトクリレン、オクチルジメチル PABA、メトキシ桂皮酸オクチル、サリチル酸オクチル、2 - フェニルベンズイミダゾール - 5 - スルホン酸、トリエタノールアミンサリチレート、3 - (4 - メチルベンジリデン) - ショウノウ、アボベンゾン、および 2, 6 - ジカルボキシナフタレン酸からなる群より選択される UV 吸収性化合物で置換されている請求項 11 に記載の方法。